

中国2 「書くこと」に関する問題④

年 組 番 氏名

青木さんは、国語の授業で、「学校生活の短歌」を作り、その作品について班で話し合いました。青木さんが書いた短歌と班員の会話を読んで、後の問いに答えなさい。

〈青木さんが書いた短歌〉

髪型を 気にする友の 背に立てば 鏡のきみも 私も微笑む

村井 手洗い場の鏡で髪型を直す友達を、鏡越しに見つめたとき、私もその子もつい笑顔がこぼれてしまう、そんな日常の一場面が思い浮かぶ素敵な短歌ですね。

青木 ありがとうございます。短歌に登場する「友」は、私の親友です。最初、私は次のように短歌を作りました。

髪型を 直す彼女の 背に立てば 鏡の彼女も 私も微笑む

しかし、友達の山田さんからアドバイスを受けて、二句と四句の表現を直すことにしました。

高橋 ①山田さんからはどのようなアドバイスをもらったのですか。

青木 はい、山田さんからは…

(中略)

村井 そうであるならば、細かなところですが、②「私も微笑む」の「私」は、ひらがなで「わたし」とした方がよいのではないのでしょうか。そうすることによって、…

問一 傍線部①「山田さんからはどのようなアドバイスをもらったのですか。」とあるが、山田さんは青木さんにどのようなアドバイスをしたと考えられるか。会話文の内容と、二句・四句の変化に注目して、「山田さんからは…」に続くよう答えなさい。

山田さんからは


問二 傍線部②『私も微笑む』の『私』は、ひらがなで『わたし』とした方がよいのではないでしょうか。」とあるが、村井さんが「私」を「わたし」とひらがなの表記にした方がよいとしたのはどのような理由からと考えられるか。会話文の内容と、青木さんが書いた短歌をよく読んで、その理由を、「そうすることによって…」に続くよう答えなさい。

そうすることによって


《解答例》

問一 どこか距離感のある「彼女」という表現を改め、より自分との関係性が明確な表現にしてみれば、とアドバイスされました。

問二 四句の「きみ」に合わせて「わたし」とひらがなで表すことで、自分と親友の親密性がより強調されるのではないでしょうか。

《評価のポイント》

問一 推敲前後で最も異なる点は、「彼女」という表現が「きみ」「友」に改められている点である。解答例では「距離感のある」という表現を用いたが、自分自身がそれぞれの表現から感じる印象を述べられているかを評価のポイントとして指導したい。

問二 「鏡のきみ」と「私」が、どちらもひらがなで「きみ・わたし」と表現されることで、短歌を通して統一された表現になることや、それによって二人の親密な関係性が伝わることに触れられるとよい。《解答例》では触れていないが、ひらがながもつ表記としての柔らかな印象について指摘することも考えられる。